

タウンピックアップ



▲負傷者役を応急手当し、速やかに救急車へ運び込むなど本番さながらの訓練。

不測の事態に備えて合同訓練

北条鉄道は5月12日、北条町駅で列車事故を想定した人命救助訓練を加西警察署、市、4月に発足した北はりま消防本部と合同で行いました。

遮断機を突破して踏切内に進入した軽トラックと鉄道車両が衝突し、乗客12人が負傷した、との想定で約50人が参加。事故発生の通報を受けた加西消防署が西脇、加東両消防署に応援を要請、現場で各消防署員が連携して負傷者に応急手当を施し、救急車で搬送するなどの訓練を行いました。

職員一同本番さながらの訓練で、迅速な対応と的確な行動を心掛けました。

加西市長感謝状を贈呈

加西市は5月10日、小川和代さん（田谷町）に市長感謝状をお贈りしました。

小川さんは、平成7年から平成22年までの16年間、加西市老人クラブ連合会副会長として、高齢者福祉と女性の地位向上に取り組むなど、同クラブの発展に尽力されました。また、兵庫県老人クラブ連合会においても、平成14年から6年間副会長を務め、平成20年から3年間相談役として活躍されました。



小川和代さん▶



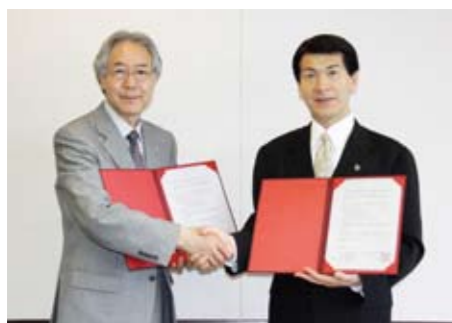
▲市役所で行われた調印式。梶田叡一学長（左）

市と環太平洋大学が教育分野などで連携協力

市は4月25日、教育分野などにおいて、環太平洋大学（岡山市）と連携協力に関する協定を締結しました。

教育、文化、学術の振興、人材育成、地域づくり等の分野で相互協力することにより、市の活力ある地域づくりと大学の活性化に繋げようとするものです。

環太平洋大学は、平成19年4月1日に開学した「次世代教育学部」と「体育学部」を設置する大学で、新しい教育やその教育者養成に取り組んでいます。



▲市役所で行われた調印式。京兼純校長（左）

市と明石工専が環境分野などで連携協力

市は5月10日、環境分野などにおいて、国立明石工業高等専門学校（明石市）と連携協力に関する協定を締結しました。

土木工学の分野に基礎をおきながら、「防災」と自然や生き物に配慮して地球の持続的発展が可能な社会を目指す「環境」を中心に研究する、同校の都市システム工学科のノウハウの提供を受けることになりました。生物多様性戦略に係るため池の水質・生態系の調査技術と、調査データの研究・編集に有効なプログラムの活用について指導を受ける予定です。

北条鉄道がビール「北条浪漫麦酒」を販売

北条鉄道(株)は、はちみつ、サイダーに続くオリジナル商品第3弾としてビール「北条浪漫麦酒」（1本330ml入り）を開発、ネット販売を始めました。

ラベルは、市内アマチュア画家が描いた旧北条町駅舎の水彩画を配して、大正ロマンが感じられるようなデザインです。良質のアロマホップを使用し、飲みやすくスッキリとした味わいで、ホップの程良い香りも感じられる仕上がりになっています。6本セット2,700円（北条鉄道ホームページ <http://www.hojorailway.jp/>）



▲列車の色である紫を基調としたラベル



▲「まちなみ五月人形めぐり」を楽しむ園児たち

まちなみ五月人形めぐり

北条幼稚園と北条東幼稚園の園児たち計44人が5月9日、北条町北条地区の民家など3軒の縁側や玄関に飾られた五月人形を見学しました。人形は、飾られずに各家庭に眠っていたものです。

子ども達のまちへの愛着を深め、住民同士の交流のきっかけにしてもらおうと、NPO法人まちづくり北条（松本正光代表）が企画。訪問先では所有者が人形にまつわる思い出を披露、園児達は勇壮な五月人形に興味深そうに眺めていました。

世界の絵本を楽しもう

加西市立図書館は5月7日、子どもの読書週間（4月23日から5月12日）に合わせ、イベント「世界の絵本を楽しもう2」を開催、海外の絵本のおはなし会や、その楽しみ方講座などを行いました。

また図書館前では、絵本「はらぺこあおむし」で有名な米国の絵本作家エリック・カールさんの貴重な原画展も開かれ、その鮮やかな色彩が道行く人達の目を楽ませました。



▲ベストセラー絵本「はらぺこあおむし」の原画を展示



▲各会場では地域の交流と熱戦がくりひろげられました

第34回町親善ソフトボール大会

加西市体育協会・兵庫県体育協会主催の町親善ソフトボール大会が4月29日、アラジンスタジアム（玉野町）など3会場で開催され、1部8チーム、2部9チームが参加しました。結果は次の通りです。

- 1部 優勝/古坂2丁目、2位/東高室、3位/中野・横尾
 - 2部 優勝/栗田、2位/福居、3位/古坂1丁目・市村
- ※古坂2丁目と東高室は加西市代表として、北播大会に出場予定



▲小さな花をたくさん咲かせたセントポーリア・ゲッツィアーナ

幻のセントポーリア、今年も開花

栽培が困難で、幻の花とも呼ばれる「セントポーリア・ゲッツィアーナ」が4月19日から5月10日、県立フラワーセンターで一般公開され、多くの来場者でにぎわいました。

平成18年に同センターで国内初の開花に成功し、今年で6年連続の開花となりました。現在も国内での栽培は同センターのみで、開花を観る事は世界的にも大変珍しいとのこと。